

令和5年度「明道館の自己評価」

◎：かなりできている ○：ほぼできている △：あまりできていない ×：ほとんどできていない

第1章 総則

1. 教育及び保育の基本と目標

	設 問	◎・○・△・×
1	認定こども園に関する法令を読み、その内容を理解している。	○
2	「教育・保育要領」を読んだことがある。	○
3	乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している。	◎

2. 特に配慮すべき項目

(1.) 教育及び保育の配慮

	設 問	◎・○・△・×
4	登園時の子どもの健康観察を行っている。	◎
5	子ども一人ひとりに、分かりやすい温かな言葉でおだやかに話しかけている。	◎
6	登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようになっている。	◎

(2.) 健康支援

	設 問	◎・○・△・×
7	子どものなかに感染症が発生したとき、発生状況や予防対策などをすぐに全保護者に連絡している。	◎
8	疾患のある子どもに対して、園医やかかりつけ医からの指示に基づいて対応している。	◎
9	子どもの体調が悪くなった時に、保護者をはじめ園医やかかりつけ医と連絡をとるように心がけている。	◎
10	子どもが活動しやすいように、その都度、保育室の換気や温度・湿度に配慮している。	◎
11	園生活での活動・発達の状況や家庭での十分な睡眠や健康的な生活リズムを身に付けるよう、保護者との連携に努めている。	◎
12	あなたは、不審者が園内に侵入した際、どのように対応するのかを理解している。	○

(3.) 食育

	設 問	◎・○・△・×
13	子どもの体調に応じ、食事の量を調整したり、食べ物を残したり偏食したりするときは過度に叱らないよう心がけている。	○
14	その日の給食の食べ具合などを必要に応じて保護者に知らせている。	◎
15	子どもが楽しく食べることが出来るように、食育の計画を作成している。	○
16	食物アレルギーのある子どもに対して、園医やかかりつけ医と連携して除去食を取り入れるなどの配慮をしている。	◎

第2章 子どもの発達

	設 問	◎・○・△・×
17	子どもの発達は豊かな心情、意欲、態度を身に付け、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。	◎
18	子どもの人権や一人ひとりの個人差を尊重して、保育している。	◎
19	子どもの興味や関心を示し、主体的に関わる環境を用意している。	○
20	園の生活に馴染みにくい子どもに対して、一人ひとりに応じた適切な援助及び環境構成を行っている。	○

第3章 「ねらい」及び「内容」

1. 保育内容「健康」

	設 問	◎・○・△・×
21	一人ひとりの子どもが明るく伸び伸び遊べるよう、見守っている。	◎
22	健康的な生活リズムが身に付くよう、一日の保育の時間配分や家庭との連携をとっている。	◎
23	食事の前や排泄の後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう保育をしている。	◎
24	生活に必要な習慣が身に付くよう家庭との連携に努めている。	○
25	災害時に子どもが取る行動について、日ごろから丁寧に話し、火事、地震以外の災害を想定した避難訓練を行っている。	◎

2. 保育内容「人間関係」

	設 問	◎・○・△・×
26	自分の事は自分でしようとする意欲を持つように励ましたり、見守ったり、その後達成感を味わえるように配慮している。	◎
27	友達と積極的に関わりながら遊び、喜びや悲しみを共感する機会を大事にしている。	◎
28	良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	◎
29	高齢者をはじめ、地域の人々などに親しみを持つような機会を保育に取りいれている。	◎

3. 保育内容「環境」

	設 問	◎・○・△・×
30	子どもが自然を観察したり触れたりする中で、その大きさ、楽しさ、不思議さなどに気づくように援助している。	○
31	園生活の中で、自然や身近な事象に関心を持つことができるように、環境を工夫している。	○
32	身近な動植物を飼育・栽培する中で、それらを可愛がったり、いたわったりする体験を大切にしている。	◎
33	数量や図形などに関心を持つように、生活の中で数を数えたり、形を意識したりするなど、工夫して保育をしている。	○

第4章 未満児の保育実施上の配慮事項

1. 乳児期の保育に関する配慮事項

	設 問	◎・○・△・×
34	あなたは保育者として服装や身支度などにも配慮し、自らの健康と清潔を常に心がけている。	◎
35	室内の温度や湿度、換気をたえずチェックし発育及び闊達の状態をよく把握した上で、常に身体の状態を細かく観察している。	◎
36	オムツを交換した後の手洗いを徹底している。	◎
37	一人ひとりの子どもの生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保している。	◎
38	床に誤飲しそうなものが落ちていないように、十分注意を払っている。	◎
39	戸外遊びを行うなどの機会を設け、身体を適度に動かす遊びや、リズムを伴ったふれあい遊びを十分に取り入れている。	◎
40	子どもの健康状態の急変に対応できるよう、日ごろから園医やかかりつけ医、専門医などと連携が取れている。	◎

2. 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項

	設 問	◎・○・△・×
41	基本的な生活習慣の習得については、子ども一人ひとりの発達過程に合わせて、無理なく行っている。	◎
42	子どもの手の届く範囲にあるものの安全性について、いつも確認している。	◎
43	自分でやり遂げる喜びや自信を持つことができるよう、配慮している。	◎
44	進級などで保育者が替わる場合は、子どもが不安にならないように職員間で情報を共有している。	◎

第5章 指導計画作成にあたって配慮すべき事項

	設 問	◎・○・△・×
50	指導計画は「教育課程」あるいは「保育過程」などに基づいて作成し、1年に1回以上は確認するなどの会議を開いている。	△
51	指導計画には、教育及び保育の期間や子どもの生活経験、発達過程などを考慮して具体的なねらいと内容が設定されている。	○
52	子どもの活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に指導計画に書き込まれている。	○
53	入園時期には生活のリズムや安全性に十分配慮して、指導計画を作成している。	○
54	あなたの保育の内容は、子どもの発達過程に合ったふさわしい活動や体験であると説明できる。	○

【具体的改善策】

教育及び保育の基本と目標

法令の理解はある。「教育・保育要領」「保育指針」は、振り返って読む機会をなかなか持てずにいる。指導計画はそれらに基づいて作成していて、各学年での話し合いを行っている。また、保育士それぞれに保育に対する理想や目標は持っているが、さらに明道館の保育理念・保育方針保育計画を立てたり行動したりできるようにしていく。

健康支援

不審者対応の避難訓練は行っているが、さすまたの導入と適切な使用方法の勉強会を行う必要がある。もしもの場合に、しっかり対応して子ども達や自分の身を守るための行動を普段の訓練で身に付ける。

食育

野菜の栽培や、クッキングなどで食に興味や関心を持つことや、食事は楽しい時間となるような行事食や季節のものを取り入れた献立を考えている。また、正しい姿勢で食べることや食具の使い方の指導を行っている。さらに、栄養士による定期的な食育指導を取り入れて、楽しく食について学べる機会を取り入れたく、協力を仰いでいる。

環境

子どもの姿や興味のあるものに注目し、子ども自身が主体的に取り組めるような環境づくりを心がける。また、保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育室づくりを心がける。常に遊具の安全確認を行い、未満児クラスは定期的に洗浄・消毒を行っているので、継続していく。口に入るものは手の届くところに置かない。

子どもにとっての最大の環境は保育士だと言われるように、私たち保育士が、心も身体も健康であり、一人ひとりの子どもに丁寧に関わることを意識する。思いを受け止め寄り添うことを常に忘れない。